

2024 年度 活動報告

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

<ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、
またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、
またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

<バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

2 2024 年度業務の全体像

(1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を広げる指標の結果は下表のとおりである。2024 年度は、前年度と比べ、参加者数指標は高くなり、提供日数及び指導者研修率は低くなっている。その他の指標はほぼ同程度となっている。

指標名	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
業務数	18	27	27	35	33
WS提供日数	71	99	92	124	103
WS提供時間	292.0	396.5	331.0	422.0	353.0
WS参加者数	489	849	790	1,147	1,623
延べ参加者数	1,484	2,207	1,839	2,397	2,582
新規業務数	3	8	9	11	11
新規業務率	17%	30%	33%	31%	33%
継続実施数	15	19	18	24	22
指導者研修率	83%	63%	64%	62%	56%

※ 業務数の中には6つの自主プロジェクトを含む。但し、WS 関連指標は自主プロジェクト（内部活動）を除外した。

(2) 扱ったテーマ 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 34）

◇国際理解系（SDGs、国際交流、多文化共生を含む）が 14 件と最も多く、次いで、人権系が 11 件、参加・まちづくり系が 5 件となっている。

テーマ	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
国際理解系	8 件	17 件	17 件	17 件	14 件
人権系	4 件	4 件	3 件	5 件	11 件
環境系	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件
ファシリテーション・参加・まちづくり系	1 件	3 件	4 件	9 件	5 件
全複合	1 件	1 件	1 件	2 件	1 件

(3) **実施した地域** 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 30 業務）

◇愛知県が 16 件と最多で大半を占めている。他府県からの依頼が例年に比べ多かった

地域	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
愛知県	8 件	14 件	13 件	20 件	16 件
岐阜・三重県	0 件	0 件	2 件	3 件	2 件
香川・高知・徳島県	1 件	4 件	5 件	2 件	3 件
その他遠県等	3 件 長野、茨城、山口	3 件 長野、静岡、東京	1 件 静岡	5 件 静岡、石川、茨城、 東京、福岡	6 件 静岡、福岡、石川、 兵庫、茨城、東京

(4) **主催者** 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 30 業務）

◇教育団体（教育委員会、学校）が 8 件と最も多くなったのが 2024 年度の特徴である。続いて 6 件が、自治体、JICA となっている。（自主開催 1 件含む）

主催者	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
教育団体系	1 件	9 件	7 件	7 件	8 件
NPO	3 件	3 件	2 件	7 件	6 件
自治体系	2 件	4 件	5 件	9 件	6 件
JICA	4 件	4 件	7 件	7 件	6 件
その他民間団体	3 件	1 件	0 件	0 件	1 件

(5) **ワークショップの時間** 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇2 時間超が 10 件（自主講座 1 件を含む）と最も多く、次いで 3～4 時間が 6 件、4.5～6 時間が 6 件などとなっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 75 時間
- ・JICA 中部 教師海外研修 48.5 時間
- ・JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）45.5 時間

業務あたりの WS 時間	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
3 時間未満	2 件	6 件	7 件	7 件	5 件
3～4 時間	4 件	7 件	8 件	6 件	6 件
4.5～6 時間	1 件	2 件	3 件	4 件	6 件
6.5～12 時間	1 件	4 件	4 件	6 件	4 件
12 時間超	8 件	5 件	6 件	11 件	10 件

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。

(6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上）は40人であった。

◇代表の請負率（代表率）は58%であった。

◇2024年度現在の研究員がファシリテーターを担った者は7人である。

ファシリテーター		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
代表	伊沢	15	23	20	18	23
研究員	平野	1	2	1	1	
	伴	3				
	久世	2	3	1	1	2
	谷口	1		1		
	滝			1		
	川合	1	1	1	1	1
	堀川				4	1
	田口	3	3	1	2	1
	鉄井	4	6	2	5	9
	長野	2	2	2	2	2
	佐藤		1			
	大島	1	1	1	1	1
	夏目	2				
	青野				1	
合計		36	43	30	36	40
代表率		42%	53%	67%	50%	58%
研究員請負数		17	18	10	16	16
同上率		47%	42%	33%	44%	40%
研究員補等請負数		2	2	2	2	1
同上率		6%	5%	7%	6%	3%
備考 （複数F依頼）		JICA(5) 名古屋JC(4) ボラセン(4) 惟の森(10)	JICA中部(3) JICA四国(4) 香川県国際交 流協会(5) 惟の森(6)	JICA中部(2) 中京大学(3) 惟の森(6)	JICA中部(2) 惟の森(7) ICAN(2)	JICA中部(2) 刈谷(2) 惟の森(5) 菊里(2)

注：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるファシリテーターは除く。

3 各ミッションに対する 2024 年度の総括（成果と課題）

① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。 担当:川合

2024 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析するためにまとめた評価指標は、運用を進められなかった。

② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。 担当:川合

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析するためにまとめた評価指標は、運用を進められなかった。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2024 年度実績

- ◇現場…9 件（昨年度 7 件）
- ◇テーマ…開発・国際理解、多文化共生、人権、教育、チームビルディング、複合
- ◇参加者数…507 人（昨年度 399 人）、 ◇延べ 871 人（昨年度 866 人）
- ◇提供時間…116.0 時間（昨年度 147.0 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2024 年度実績

- ◇現場…16 件（昨年度 16 件）
- ◇テーマ…開発・国際理解、人権、多文化共生、ファシリテーション、平和など
- ◇参加者数…604 人（昨年度 451 人）、 ◇延べ 1,139 人（昨年度 1,027 人）
- ◇提供時間…184.5 時間（昨年度 186.5 時間）

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編 2024 担当:久世

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、 基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T講座	◇NIEDが実践・推進する国際理解教育を広く普及し、持続可能な未来を築く人材の育成を図るため、人権、環境、コミュニケーションの国際理解教育の3テーマについて学ぶ場として、1回6時間の自主講座を3回計画したが、実施までは至らなかった。 ◇より多くの参加者を得るために、料金の再検討を行い、参加費を下げた。	◆料金を下方修正したが、その効果は、講座が行われなかったため検証が持ち越しとなった。
その担い手を 養成する研修 ②T講座プロジェクト	◇5月に担当理事、各回の担当ファシリテーター、担当研究員7人でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを検討した。 ◇各講座本番1ヶ月前にプログラム検討寄り合いを2回行った。寄り合いでは、講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。	◆ファシリテーター立候補者が減ってきている中で、要因を探る必要がある。 ◆より積極的にT講座検討寄り合いをアピールし、もっと多くの人数で検討できるようにしていく。 ◆NIEDの人材育成のためにも、T講座とそれに伴う寄り合いを継続していく。

b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編 担当:伊沢

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	(実績) ◇9月に3回シリーズで開催。第1回:9名、第2回:15名、第3回:8名、延べ32名が参加。19名の参加者名簿の内、会員外からの参加が8名。3回コンプリートは3名であった。 (成果) ◇多文化共生、子育て支援、まちづくり、教員など、多様なテーマに関わる団体や属性からの参加があった。香川、島根など他県からの参加もありニーズの高さを感じた。 ◇NIED会員や以前に参加した人からの口コミで参加した人や、職場の研修扱いで参加した人もいた。 ◇ちらしを作成し、紙媒体とSNSなどで多方面に広報した。広報期間に余裕を持った。 ◇参加費収入に対して支出は記録者謝金だけなので、NIEDの収益事業としての費用対効果がある。 ※会場とした伏見ライフプラザは無料	◆来年も参加したいので、HP掲載だけではなく、過去参加者には開催の連絡がほしい、という声への対応。 ◆T講座との兼ね合いで、F講座開催の最適時期がいまひとつ掴みかねる。 ◆これまで代表が担当してきたF講座だが、NIEDNEXTとしてのF講座の在り方についての検討必要。

c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト 担当:伊沢

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	(実績) ◇低学年8名、高学年11名、合計19名に対して、それぞれ年間15回(5テーマ各回/各回は3時限ずつ)のテーマ・スキル学習を提供した。 ◇低学年は、環境、自分と他者に関わる力、人権、共生・平和、みんなに関わる力の5テーマ、高学年は、世界とのつながり、まちづくり、人権、環境、社会参画の5テーマ。 ◇Fは、低学年:鉄井と長野、高学年:田口、伊沢(1回鉄井が代打)、大島、であった。 (成果) ◇伊沢が作成したプログラム案を元に、各ファシリテーターが一部アレンジして提供する形を今年も踏襲。担当Fの準備の負担減にもつながっている。 ◇テーマのつながりを意識し、惟の森の他カリキュラムとの「智恵の三つ編み」を意識した学校との連携が少しずつカタチになってきている。 ◇1テーマ3回を1人のファシリテーターが担当することで、子どもたちとの関係性構築に役立ち、また、プログラムの流れやテーマ同士のつながりに統一感ができた。 ◇学年やクラスの現状をクラス担任と情報共有し、必要なスキルや必要なテーマを随時挿入することで、現場の現状に即したテーマ・スキルとなってきている。 ◇「考える」「伝える」「聞く」「協力する」などのスキルが育成され、「民主的なスキル」「市民性」が育まれ出ていると感じる場面や個人が少しずつ感じられるようになってきている。 ◇ユネスコスクールの申請にあたり、テーマ・スキル学習が評価の対象とされるであろうこと。 ◇担任スタッフがテーマ・スキル学習に参加したり、様子を把握してくれるようになったことで、テーマ・スキルと他カリキュラムとのつながりが意識されるようになってきている。	◆特に低学年の日常において、対立の当事者が同じ人である場合が増えている。日常の人間関係やトラブルがテーマ・スキルの参加の態度に影響を及ぼすことがある。アサーションや対立解決スキルトレーニングにフォーカスする必要がある。 ◆いずれは担任スタッフにテーマ・スキルファシリテーターを引き継いでもらうための中期計画が必要。

d. IVY(アイビー) 制度 担当:川合

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等と同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇NIED 徒然で、IVY できる可能性のある研修・講座の周知を行ったが、2024 年度の利用は、3 件 5 人(JICA 中部/夏目・柴田・堀川、桜台高校・海部地区教職員組合／鉄井)であった。	◆会員それぞれの生活の優先順位があるが、NIED 内の人材育成という観点から、可能性のある人に個別にアピールしていく必要がある。

e. NIEDファシリテーター制度(研究員、研究員候補、T講座F経験者) 担当:川合

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F制度	◇受託・派遣を担った代表以外のファシは次のとおりであった。 ① 研究員候補…1 人(大島) ② 研究員…6 人(久世、鉄井、長野、堀川、田口、川合) ◇代表以外がファシを担う割合が約 43%(日数ベース)であった。 ◇ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。 ① T講座F経験者…0 人(昨年度 0 人) ② 研究員候補…0 人(昨年度 1 人)	◆NIED ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度におけるステップアップ者を増やせるよう検討、実施していく必要がある。

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2024 年度実績

◇地域・テーマの場…6 件 刈谷市×2、愛知県、こども関係×2、名古屋 NGO センター (昨年度 5 件)
◇参加者数…486 人 (昨年度 121 人)、 ◇延べ 546 人 (昨年度 281 人)
◇提供時間…49.5 時間 (昨年度 50.0 時間)

(2) その担い手を育成する研修の 2024 年度実績

◇地域・テーマの場…1 件：兵庫県三木市 (昨年度 4 件)
◇テーマ…人権
◇参加者数…26 人 (昨年度 122 人)、 ◇延べ 26 人 (昨年度 158 人)
◇提供時間…3 時間 (昨年度 18.5 時間)

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e.NIED本出版プロジェクト = ミッション②③に関する研究・発信 担当: 田口

実績・成果	課題
◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』-他者に関わる力を育もう-」(初版 515 冊/2018 年 3 月出版、第 2 版 500 冊増版/2022 年 3 月)について、①継続して普及に取り組み 191 冊を販売することができた。②開発教育協会に委託頒布をした。 ◇2 冊目の本「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『人権編』-身近な人権から考える(仮称)-」の作成に取り組んでいる。人権本は身近なテーマを取り扱う。多様性、セルフエスティーム、ジェンダーなどのアクティビティの執筆を進めている。 ◇プロジェクトメンバーが 7 人で月に 2 回程度ミーティングを開催した。	◆コミュニケーション編残り残数をいかに販売するか。 ◆人権本の完成後の販売をどのようにしていくか。

f. 公共プロジェクト = ミッション①②③に関する研究・発信 担当: 谷口・吉岡

実績・成果	課題
◇2022 年 4 月から高等学校の公民科の新教科となった「公共」の授業で使える参加型の授業プログラムの作成を進めている。2024 年度は、Zoom での寄り合いを 7 回開催した。 ◇10 テーマ程度のプログラムの開発を行っている。学校や NIED で実践をしてプログラムの見なおしができたものを NIED のホームページで「無料ダウンロード可能な教材」として掲載することになった。 ◇「幸福」「人権」「私たちのお金と市民生活」「ワーク&ライフ」のプログラムを NIED ホームページに掲載した。 ◇NIED ホームページに掲載した原稿については、感想や実践報告を求めている。 ◇現在は、「公正」のプログラムの見直しがほぼ終わり、以前 T 講座で公共プロジェクトとしてになった「社会参画」のプログラムの検討を始めている。 ◇プログラムのダウンロード件数 9 件。	◆メンバーが忙しく、今年は寄り合いの回数が昨年度より減ってしまった。 ◆プログラムの見直しはとても時間がかかり進みが遅い。すべてオリジナルのプログラムなので、よりよいものを求めると際限がなくなる。NIED ホームページへの掲載を定期的に増やしていきたいので、もう少し速度をあげたい。 ◆ホームページ掲載以外の発表の方法も引き続き考える。 ◆実践の機会をもっと作る。 ◆ホームページを通した利用者を増やし、フィードバックを増やす。

g. 書籍活々(いきいき)プロジェクト =全ミッションに関わる調査・研究 担当:伴

実績・成果	課題
◇NIED 書籍の貸出・返却実績は、2 名から3 回(3 冊)だった。 ◇お出かけ企画を実施した。 1. 9/29 ぞうのエルマーの絵本原画展(3 名参加) 2. 2/11 ありがとう谷川俊太郎の会(2 名参加) ◇3/9 生きる・谷川俊太郎ワークショップ開催(オンライン、10 名参加) ◇書棚を整理・整頓し、蔵書情報を ML で写真共有した。 ◇代表による所蔵本紹介が始まった。	◆NIED メンバーとの学び合いの場として、書籍を活用したワークショップの機会を増やす。

h. NIED情報共有システム =全ミッションに関わる調査・研究 担当:川合

区分	実績・成果	課題
実績成果の共有	◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダを継続運用した。 ◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズ応じて、過去のプログラムや教材を提供した。	◆「NIED-ShareBox-2」の利用はほぼなく、そのあり方の検討が必要である。
一般情報共有・交換	◇会員メーリングリストの年間投稿数は 247 件[前年度 291 件]であった。 ◇NIED 徒然の発行は、予定回数の 12 回行うことができた。 ◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムの周知を図った。	◆引き続き、定期的に NIED 徒然を発行し、内容の充実を図る。

i. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信 担当:川合

実績・成果	課題
◇ウェブサイトのリニューアルに伴い、これまでブログに掲載していた「お知らせ」をウェブサイトのトップページに表示されるようにした。また、同更新のため新担当を付けた。 ◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等をウェブサイトの「お知らせ」に 11 件[前年度合計 13 件]投稿した。 ◇NIED フェイスブックページは 1,099 人がフォローし、前年同期より 9 人増加に留まった。投稿数は、13 件[前年度 19 件]であった。	◆より幅広く NIED の活動を伝えるために、ウェブサイトのリニューアルに伴い、積極的に活動内容を投稿していくことが望まれる。 ◆プッシュ型の情報発信としての Facebook やインスタグラムによる情報発信について、その費用対効果を検討する必要がある。

j. 寄合プロジェクト =全ミッションに関わる発信 担当:鉄井

実績・成果	課題
◇定期的な寄り合い開催をコーディネートし、会員の寄り合い参加、寄り合い活用を促進した。 ◇他プロジェクトとも協働しながら進めることができた。 ◇7回、のべ53人の参加。 7月14日寄り合いプロジェクトの相談、アクティビティ相談(特権) 8月11日アクティビティ体験(ゴミ) 6人 9月21日アクティビティ体験(あどぼすごろく) 7人 11月17日T講座寄り合い(ゴミ) 6人 12月8日T講座寄り合い(エネルギー) 8人 2月2日アクティビティ体験(人権) 7人 3月9日アクティビティ体験(谷川俊太郎) オンライン/10人 ◇10月5日に20周年を祝うイベントを実施し、会員とこれまでのNIEDをふりかえり、これからのNIEDをともに考える機会をもつことができた。 ◇「ここまでのNIED」を会員と共有するために、視覚的に俯瞰し共感しあえるようなパワーポイントを作成した。	◆23年度に行った20周年寄り合い、20周年企画で集まったアイデアを実現していくことまではできなかった。 ◆参加するメンバーが固定されており、より多くの会員の参加が望まれる。

⑥ その他 活動の基盤となる活動を行います。

m. 会員コミュニケーション =全ミッションに関わる会員交流 担当:薄井

実績・成果	課題
◇会員コミュニケーションの一環で、新規会員の入会+その方々の自己紹介に合わせて、既存会員の自己紹介をML上で更新などしてもらった。	◇会員間のコミュニケーション醸成の場の提供ができていない。具体的には、会員個人で自発的な寄り合いを開催できることを周知していく必要がある。 ◇会員がどのようなコミュニケーションの場を必要としているのかが明確になっていない。

4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

（1）事業内容

自治体、学校、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境などをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

（2）開催概要

2024年度は、合計21事業（前年度：20事業）で、研修等の提供時間は100.5時間（前年度：112.5時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

（3）延べ参加者数 1,350人（前年度：938人）

（4）収入額 2,325,556円（昨年度：1,859,582円）謝金、委託費、交通費等

（5）支出額 1,383,391円（昨年度：1,056,412円）人件費760,032円、謝金277,875円、旅費交通費322,484円、雑費23,000円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

（1）事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱うファシリテーター養成講座を自主事業として行った。

（2）開催概要

2024年度は、合計1事業（前年度：3事業）で、研修等の提供時間は18時間（前年度：66時間）であった。

（3）延べ参加者数 32人（前年度：98人）

（4）収入額 173,000円（昨年度：479,000円）参加費

（5）支出額 120,696円（昨年度：301,597円）人件費72,005円、謝金43,000円、その他1,341円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

（1）事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

（2）開催概要

2024年度は、合計5事業（前年度：5事業）、研修等の提供時間は232.5時間（前年度：171.5時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

（3）延べ参加者数 802人（前年度：957人）

（4）収入額 17,707,308円（昨年度：20,039,846円）委託費

（5）支出額 15,669,430円（昨年度：16,979,485円）人件費5,999,497円、謝金・外注費6,975,780円、旅費交通費1,111,180円、通信運搬費52,280円、印刷製本費1,452,952円、消耗品49,807円、雑費27,933円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

(1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

(2) 開催概要

2024 年度は、5 つの事業（前年度：6 事業）、研修等の提供時間は 0 時間（前年度：2.0 時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 0 人（前年度：2 人）

(4) 収入額 392,300 円（昨年度：368,900 円）書籍頒布代

(5) 支出額 1,370,631 円（昨年度：1,819,982 円）人件費 127,336 円、謝金・外注費 1,192,000 円、旅費交通費 43,010 円、通信運搬費 7,560 円、雑費 725 円

5 会議の開催に関する事項

(1) 総会 2024 年度定期総会

日 時 2024 年 6 月 8 日（土）13:30～15:30

場 所 名古屋 NGO センター共用スペース&オンライン

出席者数 正会員総数 39 人中、出席 17 人（うちオンライン 4 人）、委任 16 人、合計 33 人

- 議 題
- (1) 2023 年度事業活動報告（案）及び決算（案）の承認に関する件-----承認
 - (2) 2024 年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認
 - (3) 正会員の会費・入会金の変更-----承認
 - (4) 役員改選-----承認

(2) 理事会 2024 年度は、下表のとおり 5 回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	5 月 12 日（日） 13:30～17:00	(1) 2023 年度事業報告案について (2) 2024 年度事業計画案について	NIED 事務所 オンライン	9 人
2	6 月 1 日（土） 10:00～17:00	(1) 2023 年度事業報告案について (2) 2024 年度事業計画案について (3) 役員改選について (4) 総会の開催方法について (5) 20 周年記念イベントについて (6) 謝金規程、ファシリテーター制度の見直し (7) テーマ講座の見直しについて	NIED 事務所 オンライン	10 人
3	9 月 14 日（土） 16:00～16:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況の確認について (2) 次年度の事業について (3) 20 周年記念イベントについて	YWCA302 号 オンライン	10 人
4	12 月 28 日（土） 13:30～17:00	(1) 各プロジェクト・事業の進捗状況について (2) テーマ講座の開催について (3) テーマ・スキル講座の開催について	名古屋市民 活動推進セン ター	8 人
5	2 月 15 日（土） 13:30～17:00	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 次年度の事業について	NIED 事務所 オンライン	7 人